

働くとき生きるは離せない

老後時代

エイジングニッポン

4

高齢女性が座ったままの車いすに、手押しポンプで空気を入れる。背筋を伸ばして歩く姿は、女性と同世代とは思えなかった。

鎌田勝治さん(78)は2年前から千葉県柏市の特別養護老人ホーム「八幡苑」で週2日ほど働いていた。月収は約6万円、掃除や草刈りなど何でもこなした。

16歳から靴職人として働き、70代で退職した。生活費に困っているわけではない。では、なぜ働くのか。「今までと勝手が違い、もやもやして体がなまっちまってね」。柏市生涯現役促進協議会の高齢者就労セミナーに参加し、そこで見つけたのがこの職だった。

今年2月、胃がんが見つかった。抗がん剤を投与さ

れ、副作用で体がだるい。それでも働き続けたのは、家にいると余計なことを考えてしまうから、という。「今は元気に働いています。いや、働いているから元気なのかな」

取材後、鎌田さんは体調を崩し、10月下旬に他界した。亡くなる直前まで働き続けた夫について、「私が止めても、本当に楽しみにしてました」と妻タカ子さん(75)は話す。



柏市は高齢者就労の先進地域の一つだ。東京への通勤圏で団塊世代の住民が多く、急速に高齢化が進んだ。そんな条件に注目し、約10年前に東京大学高齢社会総合研究機構、都市再生機構(UR都市機構)と市が、高齢者の「生きがい就労」を社会実験として進めた。報告書は指摘する。「働きに出ることは最も長年慣れ親しんだライフスタイル」就労の場では明確な

自分の役割が与えられる」年金十分あるが定年まで勤め上げた多くのサラリーマンにとって、心休まるのはやはり、「働く」ときののだろうか。安倍晋三首相が議長を務める全世代型社会保障検討

稼ぐ意欲

働く気のない高齢者に、



①「注文取り」に成功して満面に笑みの西蔭幸代さん

②車いすのタイヤに空気を入れる鎌田勝治さん。特別養護老人ホームで働いていた千葉県柏市の八幡苑、山本和生撮影